

群馬県立前橋工業高等学校 (定時制) 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 工業高校としての特色を理解して、自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。 (2) 工業の基本である「ものづくり」に積極的に取り組んでおり、座学や実習内容に満足している生徒が80%以上である。 (3) 生活体験発表作文に全校生徒が参加し、作文の提出率は100%である。	シラバスや学校生活案内を活用し、学校の特色を理解させるとともに帰属意識を高めさせる。 「ものづくり」への興味関心を高め、生徒が授業へ積極的に取り組めるような授業展開をする。 学校行事という共通理解のもとで、全職員・全校生徒で取り組み、上位大会出場を目指す。	B	A	A	最終学年の多くの生徒は学校生活を充実させることができ、希望する進路に進むことができ、今後に向けて定時制工業高校にしかできない魅力を発信し続け、生徒数を確保しなければならない。 基礎基本を学びながら、ものづくりに積極的に取り組む生徒が多く見受けられた。今後、継続的な指導を行っていく中で、総合的な探究の時間に則った、調査・研究を取り入れていく。 生活体験発表をきっかけに、過去を見つめ直し自己の更なる成長を記録することができた。代表者は立派に発表することができた。	・全体を通しての特色は十分にできていると思います。又その事が人材育成から各企業の専門分野として、物作りの基礎などは十分できていると思います。その後は、その人の就職先でのやる気、態度等はそれぞれであるが、定時制高校としての役割と課題発表の完成度が高いと思う。 ・産業人材育成の高等学校としては、安全意識の徹底は重要なことと考える。したがって常にその意識付けを実施していることを評価した。
	2 専門高校として、職業人材育成のための取り組みをしていますか。	(4) あいさつ・礼儀等の指導が図られ、80%以上の生徒が校内で実施している。 (5) 安全意識を高めるため、作業着の着用、授業の準備・片づけが積極的にできる生徒が80%以上である。	職員から積極的に生徒へ挨拶や声かけ、対話などを行い、礼儀を促す。 実習前の準備・後片づけを自主的にさせ、実習着の着用目的を説明し安全意識を高める。	A	A	A	授業や廊下での挨拶が自然とできる生徒が多い。今後も基本的な職業人共通の意識を持てるよう指導する。 作業着の着用により、安全に作業を進める心構えが出来るように指導を行った。また、5S活動の実践により、職業人共通の基本的な意識を持てるよう指導する。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(6) 生徒の実態に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。 (7) わかる授業の展開に工夫があり、授業の理解度は70%以上である。	到達目標に達しない生徒について、授業前・放課後等利用し補習授業を実施する。 言語活動の充実に努め、生徒が積極的に参加できる雰囲気づくり、分かりやすい工夫を行う。	B	B	B	到達度の低い生徒に対して、長期休業中に限らず課題等を与え、今後の学習に繋がる指導を継続していく。 授業改善事業校内研修会等を実施し、生徒の現状に合わせた授業展開を心がけた。今後も研修会をとおして工夫していく。	・課題研究発表を見る限り、自分たちで疑問を持ち試行錯誤して初めから行う物作りの原点は十分に感じられた。特に他国の生徒の発表は日本で生きて行く気構えすら見えた。 ・分かりやすい授業展開のための言語活動の実践は評価されることである。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(8) 到達度の低い生徒に対して各教科で対策を考え、課題等の完了率は90%以上である。	補習や課題提出など対策を取り、速やかに指導を行い自覚を促す。	A	B	A	授業中の小テストや学習プリントなどを使用して、到達度の低い生徒、また理解度の早い生徒の対応を行った教科が多い。今後の学習に繋がる指導を継続していく。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 生徒会主催行事に積極的に生徒が参加し、生徒の70%以上が満足している。 (10) 部活動加入生徒が部活動に積極的に参加し、70%以上が満足している。	生徒会役員を中心に生徒が自己有用感を感じられる行事を計画・実行する。 担任や部活動顧問などから積極的に、参加や活動促進を促す。	A	A	A	生徒会役員が行事の企画から運営まで携わることで、達成感とともに自己有用感を実感することができている。係職員も、生徒の自主的な運営を支援すべく、適宜、助言や指導を行っている。 部活動に参加している生徒は、概ね活動内容に満足している。学校生活をより充実させるために、今後も部活動への参加を促していきたい。	・自主性という観点では100%生徒に任せるのではなく、適正な指導を教員側が導いていることも感じた。生徒が仲間同士で研究発表を行う事は日常的な生活面、人間関係も積極的に指導している成果だと思えます。 ・自己有用感を感じる行事の計画は、困難を来す事がありがちだが、努力と粘り強さで積極的に実践していただきたい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11) 学校と緊密に連絡を取り、生徒の怠慢による遅刻や欠席をなくす努力をしている保護者が80%以上である。 (12) 欠席・遅刻をしないように努力している生徒が80%以上である。 (13) 治療勧告を受けて、健康管理の必要性を認識している生徒は80%以上である。	担任と家庭とで緊密に連携を行い、遅刻や欠席をなくす。 学校生活の充実に向けて取り組めるよう喚起する。	A	A	A	担任が家庭との連絡を密にすることが、生徒の欠席・遅刻の軽減に結びついている。生徒の基本的な生活習慣確立に向け、家庭との連携はより重要性を増している。 生徒の安全確保に向け、リーフレット等を配付して、情報提供や注意喚起を行っている。学校生活の充実に向け、学習環境の整備を心がけていきたい。	
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にしていますか。	(14) 自死防止・いじめ防止に努め、いじめの解消率は100%である。	生徒観察を充実させ悩み相談窓口等を周知し、年3回のいじめアンケートを実施し、未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	A	A	いじめアンケートは、いじめの未然防止、早期解消に大いに有用であった。生徒観察や生徒情報の収集にも力点をおいて、全職員協力体制で取り組んでいきたい。	
	8 交通安全教育を推進していますか。	(15) 交通用具利用者(ほぼ全員)に対し、車両点検を年2回実施し、安全指導・安全管理を徹底する。	年3回の車両点検、交通安全教室を行い交通事故防止に努める。自転車ヘルメット着用を促進する。	A	A	A	車両通学している全生徒が車両点検を受けており、事故防止の一助となっている。自転車のヘルメットについては、着用率の向上に向け、今後も指導を継続していきたい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(16) 仕事と勉強を両立させようと努力している生徒が80%以上である。 (17) 生徒の生活改善や進路相談のため、保護者との面談を年1回以上実施している。	望ましい就業指導を実施し、学業と両立できるようバックアップする。 家庭訪問、三者面談、授業公開、研修会等、保護者が来校しやすい環境を整える。	B	B	B	就業率は56%で、過半数を超えたが、逆に言うと半数弱の生徒は就業経験が無い。アルバイトやインターンシップを勧め、進路への意識を高めたい。 早くから進路への意識付けをするために、4学年だけでなく2、3学年でも三者面談を行う。	・今日の発表が在学中の集大成と聞き、生活面に疑問を持ち、何をやりたいか自ら考え、発見できなければ物事は続きません。生徒は元より、課題対応能力、自己理解、社会形成に向けた指導の在り方を感じた。 ・保護者が来校しやすい環境づくりは重要なことと考える。無理の無い範囲で授業や講演会などにも保護者の来校を促して欲しい。このことは教師と保護者の信頼関係構築に大いに役立つものと考えている。おそらく保護者等に参加を促しているが諸般の事情により困難を来しているものと考えられるが、でも頑張っただけで常に願っている。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(18) 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 (19) 学校行事をとおしてキャリアパスポートを活用し、将来の生き方・在り方を考える機会を、年3回以上設けている。	進路実現に役立つ情報提供や学校校外での資格など促していく。 学校行事後に感想・振り返りとして記入させ、基礎的・汎用的能力(社会形成・自己理解・課題対応能力・キャリアプランニング能力)を自ら成長させるよう促す。	A	A	A	進路講話、進路ガイダンス、卒業生からのひとこと、職業レディネステストなど、進路への意識を高めるきっかけになる行事を行ってきたい。 進路行事を含む学校行事の多くで、キャリアパスポートを利用している。まだまだメモや感想などを書くことに慣れていないので、練習させていきたい。	
	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(20) 家庭や地域との情報共有や相互の信頼関係を構築出来るよう「学校公開」を年3回以上実施する。 (21) GSN等のネット媒体のさらなる活用とともに学校から発信するホームページは少なくとも月1回以上は更新する。 (22) 科目履修生や専科生等社会人を受け入れている講座が5科目以上ある。	コロナ禍ではあるが、関係各所と連絡を密にとりつつ魅力的で分かりやすい学校説明会を実施していく。 紙ベースの連絡手段も残しつつ、ネット経由での連絡方法に移行していく。 幅広い広報活動を推進していく中で、積極的に希望生徒を受け入れて指導していく。	B	A	A	学校説明会においては、ここ数年で最も多い参加者を得ることが出来た。年々受験者数が減少する現状ではあるが、今後も魅力的な学校説明会を実施していきたい。 行事ごとのホームページの更新、GSNを通じての家庭連絡等順調に行えた。しかしながら完全に紙ベースの媒体を中止するにはもう少し時間を要するものと思われる。 本年度夏季に実施した中学校訪問が功を奏したのか、入学選抜方法変更の影響かどうか定かではないが入学希望者減少に一応の歯止めが掛かったようだ。一方、専科生においては昨年度同様希望者はいなかった。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	(23) 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回実施している。	地域で活躍する社会人講師を招き講演をいただくことで、地域の一員として参画する意識を高めさせる。	A	A	A	外部講師等を招いて通常とは異なる活動の中から、地域社会の持つ教育力に接する機会を設けた。引き続き生徒へ多くの機会を与えていく。	
	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	(24) ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	各教科で適宜学習用端末を利用し、ICTの活用を充実させる。	A	A	B	視覚的・体験的效果により、興味・関心をさらに高め、今の情報社会に対応できる授業展開としていく。ただ、教科によりICTの活用が難しいものもあった。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(25) ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。	各種アンケートを学習用端末やスマートフォンなどを利用することで、回答の簡易化の周知と、集計の効率化を図る。	B	A	B	学校評価のためのアンケートメールについては、メール案内だけではなく紙媒体での案内も活用しながら周知をした。また保護者の回答率が低い。また、降雪による臨時休校連絡を一斉メール配信を使用し周知した。 ・今日ではICTを活用している企業がほとんどです。今後もICTの活用を充実したものと取り組み、ICTの更なる発展に取り組んで欲しい。 ・教育のデジタル化は集計や通知等において欠くことの出来ないものであるため、今後の拡大に期待したい。	